

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		コミュニケーション育成型児童デイぐりーていんぐ		公表日 R8年 3月 1日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		二部屋あり適切	スペース用途の区分を掲示し運用を固定する
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		療育内容によって人員増加もしている。	増員判断基準を明文化し職員間で統一する
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		動の部屋はバリアフリー化している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		清掃表を用いている。第三者のチェックが入る	清掃重点箇所を統一しチェック精度を上げる
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		二部屋ある為不安定時にも対応出来ている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6			月1回短時間の振り返り記録を残す
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日のミーティングにて行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日のミーティングにて行ない全職員が発言する場を設けている。	職員提案の採否と理由を簡潔に残す
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		グループ内で行っている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		外部研修を受けている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		事業所ホームページにて行っている。	情報の鮮度を保つ
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		事業所内で出来ている。	アセスメント更新時期を固定する
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		事業所内で出来ている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		共有を行い支援に繋がられている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		会社内で統一されたアセスメントを使用している。	計画と実践のズレを週1確認する
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		全職員が把握して出来ている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		毎日のミーティングで意見の吸い上げが出来ている。	ガイドライン該当項目を計画書に明示する
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		職員間で意見交換し合っている。	活動案を事前決定し当日の迷いを減らす

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		作成出来ている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼にて共有し全職員が発言している。	個別と集団の配分理由を一言記録する
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		終礼で振り返りを行い、全員発言を行っている。	朝礼の役割分担を定型化する
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		ケース記録に支援内容を記載し朝終礼を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		必要に応じて短期間でも見直しを行っている。	記録テンプレを統一し質を揃える
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		研修にも入れ職員で把握、ガイドラインに則って行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		定期的に研修に参加出来ている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		担当者会議などで共有出来ている。	連携先一覧を定期更新する
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		担当者会議などで共有出来ている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				地域連携状況を簡潔に記録する
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				外部助言内容を職員間で共有する
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		定期的な研修に参加している。	研修参加内容を現場へ還元する
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		イベントや遠足などで地域の子どもとの交流がある。	地域交流は既存行事を活用する
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時やLINEなどで必ず伝えている。	送迎連絡テンプレを統一する
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		家族支援の勉強会を行い活用していく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		視覚的にも説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		出来ている。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		同意を得れている。		
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		定期的に行っている。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		今度開催できるよう環境作りを整えていく。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		迅速に対応を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		目にしやすい内容に考慮し定期的に発行している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		鍵付きロッカーに保管している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		ベクスカードなどを用いている。	訓練実施記録を残す
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		出来ている。	BCP訓練を定期実施する
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		定期的に開催し全職員に共有している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		定期的に開催し全職員に共有している。	アレルギー対応手順を再確認する
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		契約時に説明、共有を行ない全職員に共有している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		契約時に説明、共有を行ない全職員に共有している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		朝礼にて行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		緊急事態に備えた書類を準備している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		毎日の必要書類として全職員と共有している。	ヒヤリハット分類を統一する
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		委員会を設置して研修を行っている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		研修を行っている。		